

参考資料：岡山縣上道郡古都村史、現代古都の郷、ふるさと古都  
岡山史蹟めぐり（岡山市立西大寺公民館古都分館）、岡山市の地名

## 地蔵院の仏像

今日安国寺時代の仏像は一体も現存していない。明応年間の火災で全部焼失したと考えられる。

今日の地蔵院は昔の安国寺のあった処とは別の位置にあり、鉄の西側の丘陵の山麓に東面している。地蔵院の本堂内には、地蔵菩薩はなく、大日如来が一体安置されている。云う迄もなく大日如来は真言に於いて最も中心になる仏像である。

この仏像は、寺伝によれば相当古いもののように云われているが、仏像の形体、彫りから考えて江戸時代初期の地方作と考えられる。

## 地蔵院の庭園

地蔵院の庫裡の前庭は相当の人物によって、作られた者と考えられる。岩の配置等は巧妙に行われた枯山水の庭園である。

京都のあたりの庭師によって、江戸時代の始め頃造られたのではなかろうか。（巖津政右衛門氏調査）

## 青雲山安国寺地蔵院（古都学区 T さん資料より）

江戸時代初め（1610 年頃） 眠室宗安禅師（みんしつそうあんぜんじ）が再建を祈願して、1 万部に近いお経を読経する大事業をなしました。その熱意のかいあって、最初の場所より少し離れた地に再建されました。

当初は、臨済宗（禅宗）のお寺でしたが、後に真言宗（高野山が総本山）に改め、青雲山安国寺地蔵院と改称されました。

そして、これより、備前の国の安国寺から鉄村の檀那寺（だんなでら：その家が檀家となっている寺）となり、北方の医光院、南方の慈眼院などと共に真言宗のお寺として、農民の信仰を集めていました。

明治時代初め新時代になって寺子屋が廃止され、学問所が設けられました。最初は、藤井村の安井長一郎宅に設けられましたが、生徒数が増えて手狭になり、この地蔵院に移され、第 1 中学校区 47 番小学校と

参考資料：岡山縣上道郡古都村史、現代古都の郷、ふるさと古都  
岡山史蹟めぐり（岡山市立西大寺公民館古都分館）、岡山市の地名

称されました。近代教育の発祥の地として、ここはいわば古都小学校の前身とも云えるところです。

私の中学生か高校生のころまでは住職さんのいない無住の寺ではありましたが、村人が維持管理して存続しており、子供たちの遊び場になっていました。

残念ながら、その後老朽化がすすみ、寂れて1975年頃、自然倒壊し、30年ちかく荒れたままになっていました。

2007年（平成19年）に岡山市と鉄住民の協力によって、子供の遊び場所として復活したのが現在の鉄公園です。